

■角田柳作 国際教育家。アメリカで日本学の契機拓き、ドナルド=キーンら多くの研究者を輩出して“日本学の父”。

つのだりゅうさく

西南戦争・・1877＝ 群馬県勢多郡赤城村で、曾祖父が村人から地神様と言われたほどの篤農家で、祖父が名主となった裕福な農家の末っ子に生まれ、上の3人が夭折し、次男扱いとなった。

明治14年政変1881＝ 4歳：

新体詩抄・・1882＝ 5歳：父がコレラの流行で急逝したため、祖父と母に育てられ、やがて8つ年長の兄の世話も得て、

秩父事件・・1884＝ 7歳：近くの小学校に入学するとともに、村の物識りや旧前橋藩士から教育を受け、

帝国大学始・1886＝ 9歳：

帝国憲法発布1889＝12歳：

帝国議会始・1890＝13歳：兄の勧めで、中学校受験準備のため、_富岡在住の教員で群馬県の最初の師範学校卒業生角田伝の家に寄留し、木暮中学校(県立前橋高等学校)に入学する一方、県立中学校で鈴木貫太郎らと同期の角田伝が、士族出の生徒らが農家出の生徒を軽蔑するのに憤慨して退学、師範学校に転学したほどの気骨ある人物で、その影響を多いに受け、在学中ながら、

郡司千島探検1893＝16歳：上京して、東京専門学校(早稲田大学)文学部に入学、イギリス人教師アーサー=ロイドの影響を受け、

日清戦争始・1894＝17歳：

日清戦争終・1895＝18歳：

松隈内閣・・1896＝19歳：_卒業。徳富蘇峰の{民友社}の編集者となるが、被差別部落解放を志して己の無力を痛感、

八幡製鉄始・1897＝20歳：「井原西鶴」を刊行後、_退社し、

Bushidou・・1899＝22歳：翻訳「社会之進化」発表後、_京都の真言宗高等学校で英文学と社会学を教え、高野山で真言宗を学ぶ。

教科書疑獄・1902＝25歳：キリスト教系{六合雑誌}に論考を続けて寄せた後、

日比谷公園・1903＝26歳：_福島県の福島中学校に転職、英語と倫理学を担当する一方、郷里の近隣の女性と結婚、

日露戦争始・1904＝27歳：翻訳「倫理学史」発表。

日露戦争終・1905＝28歳：二男三女に恵まれ、_生徒らからは敬慕される存在となるが、

アヲヲ創刊・1908＝31歳：_皇太子(大正天皇)の東北地方行啓に際して、生徒の処置の責任を問われ、留任運動が起こる<角田事件>なか退職し、仙台第一中学校に移るものの、

伊藤博文暗殺1909＝32歳：_仏教伝道計画が具体化してハワイへ渡航、妻は直ぐに帰国したため、以後単身となり、本願寺が設立したホノルルの日本人中学校の校長を務める。この間、高等女学校校長も兼務、

明治天皇没・1912＝35歳：病氣療養のため帰国、

大正政変・・1913＝36歳：ハワイに戻り、

以後、_ハワイ全土の本願寺派全ての学校の統括者となり、青年仏教協会のためにも尽力するうち、

第一次大戦終1918＝41歳：_アメリカという国を知るべく、ニューヨークに赴き、コロンビア大学の学生となって、デューイやモンローらの授業を聴講する一方、クラーク大学でも学ぶ。

ベルサイ条約・1919＝42歳：_コロラド州デンバーの日本人会書記長から、

大暴落・・1920＝43歳：_ニューヨークの日本人会書記長を務め、この年訪米した浮田和民にも講演を依頼するなどするうち、

原敬首相暗殺1921＝44歳：

水平社結成・1922＝45歳：

_アメリカには日本学はおろか日本に関する文献等も殆ど無く、東洋研究といえば中国一辺倒であることを知って、日本を真に理解してもらう学問的土壌を培うことを志すようになり、その準備のため、

金融恐慌・・1927＝50歳：_帰国して、坪内逍遙ら早稲田大学関係者や皇族・本願寺・新聞社などの間を奔走、

共産党事件・1928＝51歳：シベリア経由で*帰米し、コロンビア大学構内に{日本文化研究所}を創立して、所長となる。

世界恐慌・・1929＝52歳：_再び帰国して図書を蒐集する一方、コロンビア大学の講師として、日本の思想史・歴史・古典文学等を教えるようになる。

満州事変・・1931＝54歳：*{日本文化研究所}の図書をコロンビア大学に引き取ってもらい、{The Japanese Collection}と改称、その所長となる。日本の戦時体制が進む中、その後も、

国際連盟脱退1933＝56歳：帰国、

二二六事件・1936＝59歳：帰国、

日中戦争始・1937＝60歳：

総動員+健保 1938＝61歳：帰国して、コレクションの充実に努め、

大政翼賛会・1940＝63歳：

日米開戦・・1941＝64歳：<日米開戦>により、敵国人として抑留されるが、

_膨大な文献資料を研究する学生から、人類学者エンブリー・歴史家ハーバート=ノーマン・美術学者ソーバー・日本文化研究者ドナルド=キーンとサイデンスデッカーら戦後の錚々たる学者が輩出して行く。

敗戦・・・1945＝68歳：_日本の<敗戦>によって、再び自由の身となり、

極東裁判決・1948＝71歳：*{The Japanese Collection}が{東亜研究所}に発展し、戦前日本に赴任したイギリスの外交官で日本の歴史研究家となったジョージ=サムソンが初代所長となるや、自ら'角田の弟子であることを誇りに思う'とまで言われ、コロンビア大学内で“SENSEI”と言えば、角田のことを指すに至る。

三大事件・・1949＝72歳：

独立回復・・1951＝74歳：

_その後も、没する直前までコロンビア大学で講義を続け、

55年体制始・1955＝78歳：久しぶりに帰国、

インスタントメン・1958＝81歳：

安保闘争・・1960＝83歳：日米修好百年に当たり、日本政府から勲三等瑞宝章、

タイタイ病始・1961＝84歳：コロンビア大学より名誉文学博士、

全国総合計画1962＝85歳：_{文芸春秋}に「ニューヨークの一人の日本人-わが師角田柳作先生のこと-」を寄せた、ドナルド=キーンから'日本学の父親'と称えられ、

東京リビ`ツ 1964＝87歳：*帰国の途中、癌のためハワイで没した。コロンビア大学の教え子らによって「RYUSAKU TSUNODA SENSEI1877-1964」が編まれた。

佐藤能丸「異彩の学者山脈」、